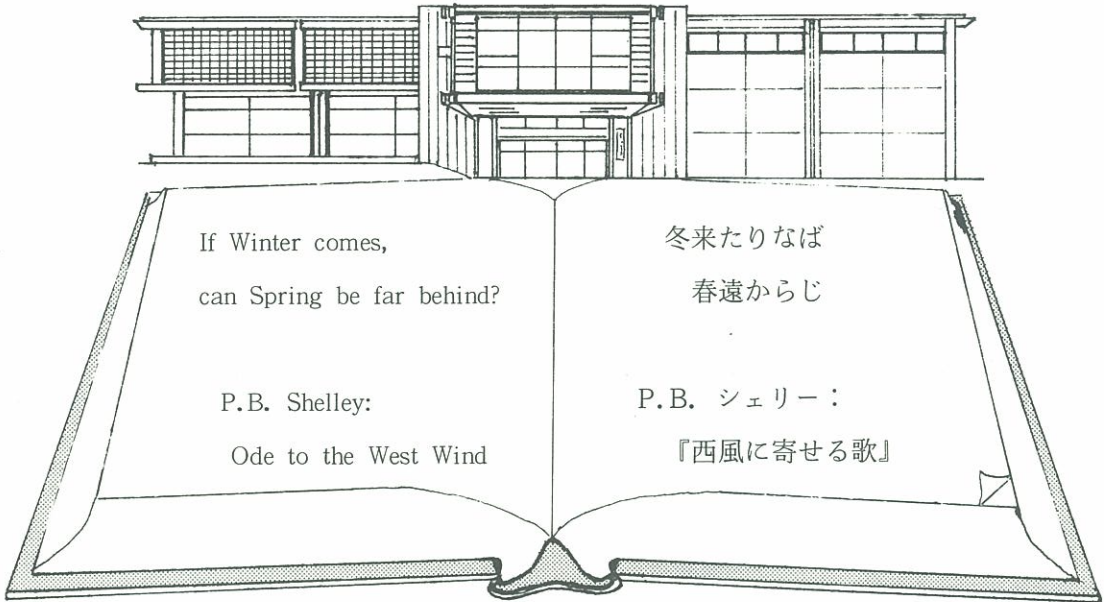


図書館だより

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library



目次

私の出会った本	橋本 剛
閑想歎談	小野 誠二
投書にみる利用者の声	
新着図書案内 ▼書評	
経済学関係	エコノミスト 宮坂 純一
法学関係	ジュリスト 須田 晟雄
工学関係	
教養関係	ユマニスト 村井 忠政
幸せな人	永井 康幸
SF小説の正しい読み方	瀬戸 敏彦
レファレンス・コーナー 文献解題	
欧文和語4 『カンヌ旅行』	佐藤 卓司
キーワード 『サーモグラフィ』	
質問に答えて	
エメール (7)	
『東は東 西は西』	山根 对助
マイクロコスモス	
『ビーグル号航海記』	佐藤 謙
編集後記	

ドストエフスキー「罪と罰」

教養部教授 橋本 剛

少年期から青年期へ移りつつあった頃、つまり17歳の頃に、ぼくは古い世界文学全集の中からなんとはなしに偶然に1冊の本をえらび出し、それを読む機会を得た。それがぼくのドストエフスキーとの出遭いの最初だったが、その時に読んだ『罪と罰』がどれほど大きな衝撃をぼくに与えたかは、今では次の事実から推し測るしかない。すなわち、それ以後しばらくの間は、ぼくはすっかりドストエフスキー党になってしまって、今度はドストエフスキー全集の中から2、3冊を借り出してきては毎日毎日それらを読み耽り、かれの世界の中に没入してしまったのである。

なぜあれほどに没入して読みまくったのか。たぶん、半分以上の理由は、ドストエフスキーのどの小説もがもっているミステリー風の小説構成上の面白さに引きずられて、ということだったかもしれない。それにしてもとにかく、ドストエフスキーの世界は、まだたおやかで不安定な少年の心がそこに入りこむにはあまりにも重く、苛酷すぎたと言うべきかもしれない。『罪と罰』をはじめとして、おおむねかれの小説は、〈人間の原罪と愛と魂の救済〉というキリスト教的主題を、ヨーロッパ的近代化という大きな潮流の中に据えなおして追求し続けようというものだったと思うが、おそらくあの頃のぼくは、夢中で読み耽りはしながらも、かれの思想の深い中身を未消化のままに吞み下していただけたらと思う。あるいは、こう言

えるかもしれぬ、すなわち、かれが投げかけてくる人生の意味の問いと、その問いによってわれわれの足下にひらけてくる、深淵の底なしの暗い深さとの前に佇んで、その作者のなにかデーモンッシュな精神的格闘劇の呪縛の中にとらえこまれたまま、少年(ぼく)の心はただ途方にくれていただけなのだ、と。そしてただ、漠とした情緒的共鳴の中に浸りきっていただけなのだ、と。それはともかくとして、ドストエフスキーへの長い間の傾倒(耽溺)の後では、ぼくの幼くかよわい魂は、ちょうど麻薬患者のようにすっかりずたずたになっていた。そしてこの後遺症から陽光の明るさの中にはい出るのには、ゆうに3~4年の歳月を要したほどであった。20歳代以降は、ぼくはドストエフスキーをもはや殆んど読んではいない。読んだものの内容についても(ものによっては話の荒筋さえも)殆んど今では憶えていないほどである。しかし、そんな今になって最近時どき、いつかひまの時にぜひもう一度読んでみたいという思いを濃くしている。

ぼくらの精神形成期にあれほどまでに強烈にぼくをとらえ、引きずりこんだのは何であったのか、若いぼくはドストエフスキーの何をわかり、何をわからずに読んだのか、今の自分ならどう読むだろうか、を確かめてみたいのである。

(はしもと つよし・社会思想史)

閑 想 歓 談

教養部教授 小野 誠 二

私は飢餓の世代の昭和ヒトケタ生まれの人間でもあるからか、長いこと食べ物には卑しいくらい執着してきた。1日3度の食事を1回でも抜かずということは、人生におけるとんでもない大損だという脅迫めいた観念が実に40歳近くまで頑固に続いていた。

今は逆に、なるべく少ない量を体に入れてあの世に行った方が人間らしいかも知れないと考えるようになり、それだけ卑しさは減った。食べ物を残すのは勿体ないという気持の失せることはないが、食べるということにいささかは縛られなくなった。

読書についてはどうか。敗戦時、活字にやはり飢えていて、理解できるできないにかかわらず、手に入る本ならなんでも読もうとした。数年間、貸本屋を徹底的に利用した。食べ物とは違って読書量を減らそうと心が動いたこともなければ、また、そうすべき性質のものではないだろう。しかし、それでも、自分の本棚にときに眼をやって、「あの本」は死ぬまで読まずに飾られてあるだろう、と思うことはある。それはそれでいいのだと思えるようになってきた。

(おの せいじ・論理学)

投書にみる利用者の声

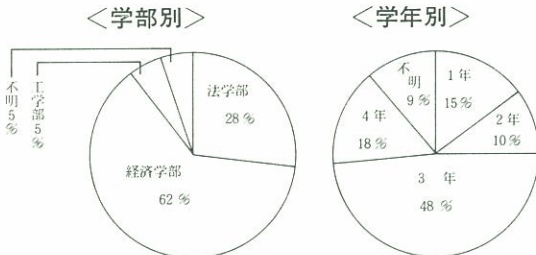
～設置2年半～ 図書館備付希望図書コーナーの利用状況～

図書館備付希望図書コーナーの開設(昭54.4)以来、現在まで2年半が経過しましたが、この間、学生希望の件数は153件にのぼり、以来、希望の内容が誠実に検討され、図書館の運営にさまざまな形で活かされてきましたのでご報告し、利用者の皆さんに、さらにこのコーナーを有効に使っていただくためにも、今までの利用の実態を分析してみました。

■ 全投書数 153件 — その内訳 —

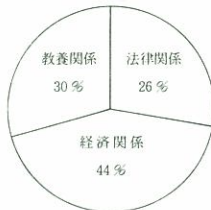
- ☆備付希望図書に関するもの 130件
- ☆図書館に関する意見のみ 8件
- ☆両方の並記 15件

■ > 投書者分析 <



■ > 投書内容の分析 <

○ < 希望図書の分類 >



○ < 投書にみる利用者の声 >

- ☆本をもっと増加・充実してほしい。
- ☆開架コーナーの本を増してほしい。
(昭和56年8月、開架コーナー図書3,000冊増加、計1万冊となる。現在、さらに増冊数を検討中です。)
- ☆希望した図書は、なるべく早く購入してほしい。
- ☆肩の凝らない「みる」、雑誌—グラフ誌、娯



楽誌的なもの—「写楽」(カメラ誌)、「ナンバー」(スポーツ誌)、「週刊FM」(音楽誌)、「ダン」、「クオリティ」、「週刊朝日」—購入済—、「アドバタイジング」(広告誌)—購入済—等の雑誌を入れてほしい。

- ☆施設の改善、修理の要請(蛍光管の取り替え等)
- ☆その他

■ > 希望資料の購入率 <

- 備付希望のあった資料の<購入率> 74%
- 備付希望についての投書件数 145件
- 実際に購入した件数 107件
- 購入できなかった資料 38件
- ◇その理由—既に本館所蔵済の資料 9件
- 書名、出版社名等が不明のもの 4件
- 図書館の資料として受入れるには問題があるか、もしくは類書で充分代用できると思われるもの(少年マンガ等) 13件
- 注文したが、販元から品切、絶版の通知があったもの 12件。

■実際の<購入率>74%ということは、現在のところ、図書館に備え付けてほしいと希望された資料のほとんどについて、実際に購入されているといえます。購入した希望図書については、随時、図書館掲示板でお知らせし、希望者にも連絡し、利用に供しております。資料費高騰の折でもありますので、この制度を大いに活用なさってはいかがと思います。

新着案内

経済関係

(昭和56年8月以降に整理された学生用図書の一部です)

経済学全集 21 第2版 都市経済論 筑摩書房
1980 330.8 Ke 29

大塚金之助著作集 5 わたしの読書遍歴 6 随想
人間広場 8 社会思想の旅 2 9 歌集歌論
岩波 1981 330.8 O 88

東洋マネジメント大系 1～52 (全52巻)

1. 経済学 西川俊作著
2. ケインズの経済学 D. ディラード著
3. 実践経済学 高橋亀吉著
4. 日本経済 金森久雄 香西泰編
5. 世界経済 宮崎勇 丸茂明則編
6. 金融 呉文二著
7. 証券 呉文二著
8. 経済統計 森田優三著
9. 景気の見方 小林進編著
10. 日本の経営 津田真徴著
11. 経営の源流 森川英正著
12. 経営発展史 J. ヒルシュマイヤー著
13. シアーズ・ローバック 鳥羽欽一郎著
14. クルップ 諸田実著
15. GE 小林袈裟治著
16. ヒルトンホテル 鳥羽欽一郎著
17. フォード 下川浩一著
18. 経営の基礎数学 久武雅夫著
19. PERT 刀根薫著
20. オペレーションズリサーチ 菅波三郎著
21. 情報学 奥村誠次郎著
22. 経営計画 中村元一著
23. 企業分析 阿部斗毛著
24. 経営分析問答 森脇彬著
25. 労務管理 西宮輝明著
26. 女子社員管理 木下鎮夫 松本健著
27. 経営実務 元吉重成著
28. 手形 大佐正之著
29. 経営の赤信号 田辺昇一著
30. コストダウン 山中秀男著
31. プロジェクトチーム 中村浩治著
32. マーケティング 久保村隆祐他著
33. 製品開発 日本経営計画協会編
34. 商品仕入 坂倉芳明 米谷浩編
35. 販売促進 大歳良充著
36. PRの設計 加固三郎著
37. 長生きと食物 柳沢文夫著
38. 病気のない世界 柳沢文夫著
39. 眠りと夢の世界 松本淳治著

40. 脳卒中 相沢豊三著
 41. 肝臓病 高橋忠雄著
 42. 心臓病 榊原仟著
 43. 呼吸器病 千葉保之著
 44. アレルギー 北原静夫著
 45. セールスマンの育成管理 村山武久著
 46. 部下の育成 加久間岩夫著
 47. 企業内教育 岸恒男著
 48. リーダーシップ 小林末男著
 49. さらば会社人間 牧野拓司著
 50. 証券投資 木佐森吉太郎著
 51. 生きるサラリーマン 三鬼陽之助著
 52. 読書 吉野俊彦著
- 東洋経済新報社 1980 330.8 To 29

サミュエルソン経済学体系 4 経済動学の理論
勁草書房 1981 331.39 Sa 59

従属的蓄積と低開発 A. G. フランク著 吾郷健
二訳 岩波 1980 331.48 F 44

日本経済事典 金森久雄〔等〕著 日経新聞社
1981 332.1 N 77

欧州共同体(EC)の研究 細谷千博 南義清編
著 新有堂 1980 333.6 H 95

◇=◇=◇=◇=◇ エコノミスト ◇=◇=◇=◇=◇
||
|| 奥村 康司著
||
|| 『労働の人間化・その世界的動向』
||
|| 有斐閣 昭和56年6月刊
|| 行動科学的労務管理は、1970年代に入り、
|| それが前提としていた自己実現モデルが崩
|| れはじめ、新たな展開をみせるようになった。
|| 新しい人間モデル=複雑人を前提として今日
|| 注目を集めているのが「労働の人間化」であ
|| る。本書は労働の人間化を扱った注目すべき
|| 1冊であり、半自律的作業集団に焦点をあわ
|| せて、資本主義国だけでなくソ連邦をも含め
|| た国際比較の観点から執筆されている。スロー
|| ガンが先行した形となった「労働の人間化」
|| の実態と問題点を知るための最適の書である。
|| (宮坂 純一 経済学部助教授)
◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇

文廷式全集 1-10 台北 大華書館 1969
310.8 B89

議会と政府 —アメリカ政治の研究— W. ウィル
ソン著 文眞堂 1978 314.653 W73

ドイツ社会民主党とカウツキー 山本佐門著 北
大図書刊行会 1981 315.34 Y31

行政の設計 —社会ニーズと公共政策— 片岡寛
光著 早大出版部 1978 317 Ka83

官僚国家と地方自治 大島太郎著 未来社 1980
317.3 O77

ドイツ法律用語辞典 山田晟著 大学書林 1981
320.3 D83

現代法律学全集17 商法行為 平出慶道著 青林
書院新社 1980 320.8 G34

基本判例双書 —刑事訴訟法— 渥美東洋著 同
文館 1981 320.98 H29

日本法入門 稲子恒夫著 法律文化社 1981
321 I52

現代法哲学の基本問題 V. ベシュカ著 石井幸三
〔等〕訳 法律文化社 1981 321.1 P44

現代韓国台湾における法哲学 鈴木敬夫訳編 成
文堂 1981 321.1 Su96

外国法の調べ方 —法令集判例集を中心に— 田
中英夫〔等〕著 東大出版会 1974 322.9 Ta84

英米法の諸相 田中英夫著 東大出版会 1981
322.93 Ta84

日本国憲法概説 佐藤功著 全訂2版 学陽書房
1980 323.4 Sa85

現代株式会社の機関構造 南隅昇著 白桃書房
1980 325.243 N48

株主権の法理 長浜洋一著 成文堂 1980
325.2431 N13

株主の議決権行使 —その実証的研究— 南隅昇
著 白桃書房 1974 325.2431 N48

保険契約の基本構造 田辺康平著 有斐閣 1979
325.41 Ta83

現代不法行為理論の一展望 平井宜雄著 一粒社
1980 324.55 H64

判例刑法研究 4 未遂・共犯・罪数 5 個人法益
に対する罪 有斐閣 1980-'81 326.08 H29

ホーンブック犯罪学 菊田幸一著 北樹出版
1981 326.3 Ki29

マルクス主義政治学入門 R. ミリバンド著 青木
書店 1979 363.3 Mi26

犯罪と社会 G. M. サイクス著 前野育三訳 成
文堂 1981 326.3 Sy2

外国刑事法文献集成 2 スイス刑法雑誌 成文堂
326.9 G14

民事執行法を学ぶ 新堂幸司 竹下守夫編 有斐
閣 1981 327.3 Sh62

◇=◇=◇=◇=◇ ジュリスト ◇=◇=◇=◇=◇
||
◇ 佐藤 欣子著 ◇
◇ 『取引の社会』 ◇
|| 中公新書379 ◇
◇ 本書は、厳格な手続的正義に基づいて公正 ◇
|| な裁判が行なわれているといわれるアメリカ ◇
◇ の刑事裁判の実態を赤裸々に描き出しており、 ◇
|| 極めて興味深い。著者は、アメリカ刑事司法 ◇
◇ の最も重要な特徴である有罪答弁が刑罰軽減 ◇
|| などの取引として利用されるため、公正な ◇
◇ はずの裁判は「取引司法」と化し、そこはま ◇
|| さに被告人と検事との間の「取引の社会」化 ◇
◇ していることを実例を挙げて指摘している。 ◇
|| 刑事裁判で探求すべきものは何かを考えるう ◇
◇ えて示唆に富む、しかも肩のこらない1冊で ◇
|| あり、一読を勧めたい。 ◇
|| (須田 晟雄 法学部助教授) ◇
◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇=◇

新着案内

工 学 関 係

- スプライン関数入門 —情報処理の新しい手法—
桜井明編著 東京電気大学 1981 413.58 Sa 47
- 有限要素法による弾塑性解析プログラミング
山田嘉昭他著 培風館 1981 501.33 Y 19
- 詳解構造力学演習 彦坂熙 崎山毅 大塚久哲著
共立出版 1981 501.34 H 57
- 構造力学 黒木健実 太田俊昭著 森北出版
1981 501.34 Ku 75
- 土木計測概論 中根博司著 横浜 土木計測研究
所 1981 510.1 N 38
- 建設技術者のためのセメントコンクリート化学
W. チェルニン著 技報堂 1969 511.7 C 99
- コンクリート工学 2 設計 後藤幸正 尾坂芳夫
三浦尚著 新訂版 彰国社 1980 511.7 G 72
- 利根川治水の変遷と水害 大熊孝著 東大出版会
1981 517.5 O 55
- 騒音対策と消音設計 福田基一 奥田襄介著 共
立出版 1973 519.56 F 74
- 建築生産の技術 —計画・施工・管理—梅村魁著
丸善 1978 520.1 U 72
- 谷口吉郎作品集 谷口吉郎著 京都 淡交社
1981 520.8 Ta 87
- 日本の民家 4 農家—中国・四国・九州—
学習研究社 1981 521.86 N 77
- 新しい建築構造力学と構造設計 福知保長著
オーム社 1981 524.1 F 74
- 建築構法 佐治泰次著 理工学社 1981
524.1 Sa 26
- 建築の構造その事故と災害 鷲尾健三 高橋慶夫
五十嵐定義著 丸善 1978 524.1 W 44
- 枠組壁工法・構造計算の手引 枠組壁工法構造研
究会編 第2版 井上書院 1978 524.5 W 35
- 鉄筋コンクリート構造計算規準同解説 日本建築
学会編 第3版 同編所 1979 524.7 N 77
- 高強度鉄筋コンクリート造設計施工指針案同解説
日本建築学会編 同編所 1976 524.77 N 77
- 建築の音響設計 永田穂著 オーム社 1974
524.96 N 23
- 図解バリアフリーの建築設計 荒木兵一郎 藤本
尚久 田中直人著 彰国社 1981 525.1 A 64
- 建築製図入門 後藤久著 改訂第1版 明現社
1975 525.1 G 72
- デジタル・パース 岡本博著 マール社 1980
525.1 O 36
- 木造住宅積算入門 —どんぶり勘定からの脱皮—
はまだかんじ著 大成出版社 1980 525.3 H 22
- 鉄筋コンクリート造配筋指針案 日本建築学会編
同編所 1979 525.52 N 77
- わかりやすい住まいの法律 山田修著 相模書房
1979 525.9 Y 19
- 省エネルギー住宅の考え方 真鍋恒博著 相模書
房 1979 527.1 Ma 43
- 日本の座敷の工法 佐藤日出男著 第3版 理工
学社 1981 527.4 Sa 85
- 室内環境学 瀬沼勲著 三共出版 1980
528 Se 75
- ソーラーハウス設計の実際 中島康孝 大橋一正
著 オーム社 1980 528.2 N 34
- ソーラーハウスの設計と施工 田中俊六 浅野祐
一郎著 オーム社 1981 528.2 Ta 84
- マイコンプログラミング500題 田中廣著 日刊
工業新聞社 1981 549.9 Ta 84
- 技術の算の手引書 渡辺一郎 平原英夫著 富士
書房 1981 549.9 W 46

- 原典による思想入門 丸山敦子 菊川忠夫著 文化書房博文社 1981 102 Ma 59
- 現代論理学 坂井百大著 東海大学出版会 1971 116.01 Sa 32
- 旧約聖書一日一章 榎本保郎著 主婦の友社 1972 193.1 E 63
- 郷土史事典 1 北海道 高倉新一郎監修 晶平社 1980 210.08 Ky 2
- 北海道大百科事典 上下 北海道新聞社編 1981 211 H 82
- シルクロード 1 長安から河西回廊へ 2 敦煌 3 幻の楼蘭 日本放送出版協会 1981 292 Si 4
- 春は鉄まで匂った 小関智弘著 晩聲社 1979 366.8 Ko 83
- 岩波理化学辞典 玉虫文一〔等〕編 岩波 1981 403 I 95
- 科学とは何か? N. キャンベル著 法律文化社 1979 404 C 14
- コスモス 上下 K. セーガン著 木村繁訳 朝日新聞社 1980 440.4 Sa 15
- 人類学講座 13 生活 田辺義一編 雄山閣 1981 469.08 J 52
- 新潮古代美術館 12 日本文化の創世紀 13 日本美術の完成 14 古代アメリカの遺産 新潮社 1981 702.03 Sh 61
- 現代美術の三十年 一国際化時代の証言—瀬木慎一著 美術公論 720.4 Se 16
- 教養のための基本漢字表 国語問題協議会編 笠間書院 1980 811.2 Ko 47
- 現代フランス類語辞典 R. リーチ著 大修館 1978 853.5 G 34
- 蒲原有明論 一近代詩の宿命と遺産—沢沢孝輔著 中央公論社 1980 911.5 Sh 21
- 狂風記 上下 石川淳著 集英社 1980 913.6 I 76
- 真実の学校 高井有一著 新潮社 1981 913.6 Ta 34
- 炎のなかの休暇 吉村昭著 新潮社 1981 913.6 Y 91
- 街道をゆく 1-11 司馬遼太郎著 朝日新聞社 1971-'78 915.6 Sh 15
- 新潮現代文学 5 尾崎一雄 8 石川淳 15 中山義秀 62 森茉莉 80 古井由吉 新潮社 1981 910.8 Sh 61
- 平田秃木選集 全4巻 南雲堂 1981 930.8 H 68
- フランス文壇史 渡辺一民著 朝日新聞社 1976 950.2 W 46
- フランス詩の散歩道 安藤元雄著 白水社 1974 951 A 47
- 現代論理学 坂井百大 坂井秀寿著 東海大学出版会 1971 116.01 Sa 32

◇◇◇◇◇ ユ マ ニ ス ト ◇◇◇◇◇

|| 栗原 彬著 ||

|| 『やさしさのゆくえ=現代青年論』 ||

|| 筑摩書房 1981年6月刊 ||

|| 「青年現象のなかに、青年の事実でなく真実 ||

|| を、また個人の心理でなく社会的なものを、 ||

|| さらに青年の客観的観察だけでなく青年と私 ||

|| との間の相互的な共鳴装置を取り出そうとする ||

|| とき、アイデンティティの概念はほとんど ||

|| 唯一の有効な補助線である。安保闘争が社会 ||

|| 的事実として終わってしまっても、まだ自分の ||

|| 内側ではいっこうに終りそうもなかった60年 ||

|| 代初め、エリック・H・エリクソンのアイデ ||

|| ンティティの考え方に会った。」(同書 11 ||

|| 頁より)(村井 忠政 教養部助教授) ||

◇◇◇◇◇

幸せな人

経済学部 3年

永井康幸

今、私のまわりには多くの人がいます。色々な表情をし、色々な行動をして。どのような人が幸せな人なのか、それに付いての私の考えを、ここに書いていきたいと思います。

まず最初に、その人の心の中に不満、不足を持っていない人、その様な人は、本当に幸せな人だと思います。何に対しても不満、不足がないという事は、いつもその人の心の中が楽しく、幸せが満ちあふれているという事です。このような人は、不満がないのだから、人に対しても不満を持たせるような行動はしないでしょ。という事は、その人のまわりには、いつも友人が沢山集まって来るという事です。2番目の条件は、心から話し合える友人を持っているという事だと思います。心から話し合える友人・親友を持つという事は、真に難かしい事だと思います。欲しい欲しいと思っても、相手がいる事なので1人ではどうしようもありません。親友を欲しいのなら、まず、人の身になって物事を考え、行動しなくては行けないと思います。そして、その人に対して、自分の心を開かなくてはならないと思います。そうしていれば、相手の人も、その人の事をよく理解し、その人の事を考え、そして心を開いてくれるようになると思います。お互いに、相手の事を考え、心を開いて話し合える。これこそ、真の友人・親友だと思います。反面、親友をもてない人は、不幸せな人だと思います。その様な人も表面上は、いつも笑いながら話しをしてくれる人や、遊んでくれる人が居ると思います。しかしそれは、あくまでも表面上であり、付き合いであり、お互いに心を開きあってはいないはず。そのような人はまず、自分自身を自己批判してみて、自分の悪い所を直していく必要があると思います。自分のまわりには、多くの人がいて共存しているのです。自己中心的考えを捨てるべきです。3番目の条件は、一生懸命に生きれる。という事です。自分が今、生きているその時を一生懸命生きれた。その様な人は、最高に幸せな人だと思います。

この3点が、私の思う幸せな人の条件です。私も早く、この様な幸せな人になりたいです。

SF小説の 正しい読み方

法学部 3年

瀬戸敏彦

「ねえ、この原稿、『図書館だより』に載るんでしょ」「そうですよ」「じゃ、本のこと書くのかなねえ」「そのほうが、いいんじゃないですか」

と、いうわけで、SF小説のことについて述べようと思うのですが……最近、あんまり本、読んでないんだよね、実は。困ったな。どうしょ。

確かに言えることは、SFに限らずどんな本でも、「おもしろい」と思えば、それはあなたにとって、よい作品なのです。いくら『ビーグル号』が名作だと言われていても、肝腎のあなたが「つまんないや」と思ったなら——それは、駄作です。

そして、このような感覚を持ちながら読むのがSFの、唯一の正しい読み方なのであります。また、ひとりの作家の作品を、ねちこく読みあさっても、広く浅く相手かまわず読んでも、かまいません。でも、眉村卓とニーヴンはキラリだな。

そうして、正しい読み方を頭に叩きこんで、本屋に向います。そこで、あなたはどんな本を選ぶか。まちがっても、SFファンを自認するような人間に選んでもらうのは、やめましょう。彼、あるいは彼女がSFに狂っているほど、その選択には自分の好みが入りすぎ、クセがありすぎるものです。ファンを自称する人間に限って、スペ・オペと時間テーマとミュタントテーマと、侵略テーマと……ええい、めんどくさい。とにかく、SFの全範囲を知りつくしている人間なんぞ、滅多にいるわけありません。要するにSFファンとは一部の器官だけが発達した奇形児のようなもので、こういう人間を頼るのは、愚かなことです。

(うわー、収拾つかなくなってきたなあ)

それでは、どのように選ぶかという、銘柄で選ぶのが一番確実。国産品では御三家のほか、平井、広瀬、矢野など。舶来物ではクラーク、ブラッドベリが、わりと失望が少ないみたい。ぼくは最近、本は表紙で選ぶことにしています。

ところで、こんなこと書いていて、私を文学会かSF研の回し者だと思われた方、それは、まちがいです。映画研究会で、映画づくりの真似ごとなどしているのですが……。

レファレンス・コーナー

<人名辞典>

著作権台帳（文化人名録下）日本著作権協議
会編 201.3 N77
朝鮮人名辞典 朝鮮総督府編 復刻版 282.1 C54
中国人名辞典 難波常雄他編 282.2 C62
コンサイス人名辞典 日本編 外国編 三省堂
編所編 280.3 C86
大日本人辞典 全5巻 復刻版 281.03 D25
江戸東京市人物事典 北村一夫著 281.03 E24
現代人物事典 朝日新聞社編 281.03 G34
現代日本執筆者大辞典 全4巻 佃実夫〔等〕編
281 G34
北海道史人名字彙上下 河野常吉編 復刻版
281.1 Ko76
岩波西洋人名辞典 岩波書店 283.03 I95

漢訳漢名西洋人名字典 仙田正雄編 283.03 Ka59
明治過去帳 大植四郎編 281.03 Me25
日本人物文献目録 法政大学文学部史学研究室編
281 H91
日本人名大事典 全6巻 復刻版 補巻 現代
平凡社 281.03 N77
日本古代人名辞典 竹内理三他編 281.03 Ta67
日本社会運動人名辞典 塩田庄兵衛著
363.03 N77
日本史人名辞典 栗嶋狭衣編 281.03 N77
歴史人物辞典 山口康助他編 281.03 R25
世界人物事典 吉田精一編 280.3 Se22
戦国人名辞典 高柳光寿他著 281.03 Se64
思想家人名辞典 神田豊穂著 280.3 Sh91
賞と記録の人名辞典 自由国民社 281.03 Sh96
大正過去帳 稲村徹元他編 281.03 Ta24

文 献 解 題

■ 英語語源辞典

～Origins & Etymological
English Dictionary～

語の起源と歴史の記述あるいは説明を「語源、(etymology)」という。つまり、語の戸籍に相当するのが語源である。英語の専門家や英語の歴史に関心を持っている人などは、語の発音、綴り字、語義などを深く理解し、英語が発達してきた手がかりをつかむためには語源が重要であることを知っている。しかし、英語辞典を実用的に使う大部分の英米人は、語源欄には余り注意を払っていないといわれるし、まして英和辞典を引く一般の日本人は、語源の解説に関心が無いというより、辞典の語源記述が専門的で難解に見えて、敬遠することが多いというのが実状のようです。

しかし、辞書にある語源の説明は難しい内容でないものも多く、それらを読み、単語の語源の知識を持つのは、英語を知る上で非常に有益です。

語源から英語を覚える場合、対象となる語は、

英語のうちでも、ギリシャ、ラテン語系統のものが主となるようです。英語のなかにある長い綴りの単語は、それだけでは覚えにくいですが、こういう語は、接頭辞、語幹、接尾辞などから成り、それらを分解すれば、記憶に役立つばかりでなく、はじめて出会った単語の意味を推しはかれることが多いのです。下記の資料は、当館に所蔵する語源辞典です。

中島文雄 寺沢芳雄共編 英語語源小辞典研究社

Eric Partridge, Origins: a short etymological dictionary of modern English, 1966.

Joseph. T. Shipley, Dictionary of World Origins.

A. M. MacDonald, Chambers Etymological English Dictionary, 1949.

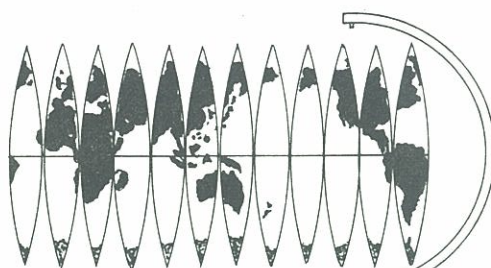
W. W. Skeat, A Concise Etymological Dictionary of the English Language, 1882.

The Oxford Dictionary of English Etymology, 1966.

カンヌ旅行

教養部助教授

佐藤卓司



欧文和語

(4) FRENCH

図書館より、できればユーモアを混じえたコントを書いてくれるようとのことであった。それではフランス小説集の中から関心あるものを拾ってそれを自分なりに解釈しつつ、原稿をうずめようと思った。しかし私の記憶にあるのは、2年のクラスで授業で使用したテキストの中にある皮肉たっぷりのブラック・ユーモアのお話しか、さしあたって残っていなかったし、それにフランス小説集という参考書も手許にない。さてなにを書こうかと一思案、まさか授業のこと、研究のこと、さればとて大学問題のことをとも思ったが、それでは、どうも専門すぎたり、フランス語以外のことに話の焦点がうつりかねない。将来又どこからか何か書いてくれるよう依頼されはしまいかと案じつつ、今ペンを走らせているところである。この際だからどうせ自分の体験談でも書きつづるのも悪くはないと思った。53年私は夏期休暇を利用して南仏のカンヌへ遊学に行った。フランスは確かに気候・風土の点ではC'est un beau paysである。特に南仏の燦々と輝く太陽と、珪土質の土地地肌に見える小山の連なりに、そう少なくともなく生えている松の木々、これとは反対に所によってはうっそうと茂った草木の土地も多い。リヨン駅を午前10時発、(正確な時間は気憶してません)の汽車は、日本の国鉄よりも早いスピードを持続させながら、緑豊かで小山もそう見られない田園地帯を走り続けていた。8月上旬の暑い日であ

たが、列車はバカンス客で満員で、昼サンドイッチとジュースを買いに車内を渡ろうとしたが、廊下も超満員、汗を流しながら、やっと買いもとめたイギリスパンはさっぱりおいしくなく、わずかしか食べなかった。ジュースの方が何かに飢えたような私を、生理的欲求も手伝って一気に飲みほさせてくれた。カンヌの Collège international de Caunes で私は Cours moyens を受けたが、私以外は全員、この日仏文化協会主催のフランス研修旅行に参加したのは、OLとか小学校でフランス語を教えているとかいう若い女性達ばかりであった。勿論カンヌに行ったグループについてのことであるが、私達が最初パリに着いた時は、午後8時なのに、真昼と同じように明るかったが、リヨン駅よりも小じんまりとしたカンヌ駅に到着したのは、夕暮れせまる頃であった。出迎えのフランス人の一人が、日本の女性に Vous n'êtes pas dépaysées? と聞いて、なんのことですかと年配の通訳兼世話人の先生に聞きかえしていた。1ヶ月以上全然雨も降らず、クロワゼット通りを見下ろす小高い丘の上で、太陽のもと、澄みきった空と心地よき微風を吹きこむ海、それに色とりどりの芳香を放つ花々にかこまれて、教会に来るフランス人や仲よしになった同じ学校のクラスメートとフランス語で実際話しをしたことは、私にとって貴重な体験であった。

(さとう たくじ・フランス語)

キーワード

サーモグラフィー

人間の身体などから放射される赤外線を、敏感なセンサーでとらえ、コンピュータの画像処理によって映像化したものがサーモグラフィーである。

赤外線は、人間の目にみえる可視光線より波長の長い光である。一般に波長が0.8~300ミクロンのものである。太陽やストーブなどのように赤熱した物体から放射される輻射熱の大部は、この赤外線によるものである。そのため、赤外線は熱線とよばれることもある。

人間の身体も熱をおびているので、その表面からはたえず赤外線が放射されており、これをセンサーでキャッチすることができる。このような赤外線として放射される熱の分布をみることもできるためサーモグラフィーは熱分布地図と考えることができる。最新の技術では、わずか0.1度の温度差までも見分けることができるようになっている。さらに赤外線の検出や処理のしかたによってさまざまな色の組み合わせをもった映像が得られる。

—Newton vol.1. No.4 (1981.10月号)

サーモグラフィーより—

質問に答えて

Tさんの質問

特定の人物を調べたいがどのような資料がありますか？

回答

1. 日本人物文献目録 法政大学文学部史学研究室編 昭和49年(1974)1,198頁 281 H91
明治初頭から昭和41年末までに刊行された図書、史学関係雑誌から日本人の伝記に関する文献を3万余名収録した。配列は被伝者名の五十音順、同一被伝者名に関する文献に、書誌、図書(全集、叢書、論集などから採った記事を含む)逐次刊行物記載の記事を3つに分類してある。巻末に採録資料の一覧として二次文献類と逐次刊行物が付記されている。
2. 人物書誌索引 深井人詩編 日外アソシエーツ 昭54(1979) 280.31 F71
昭和41年から昭和52年にかけて発表された文献・雑誌及び書誌の中から代表的なものを8,000点を選び、そこから4,200名の人物

について編纂された書誌索引である。

- (1)配列：①人名目次50音順、②人物書誌索引(本文)人名の50音順。人物の配列は西洋人名も仮名読みにし音順に配列されている。
- (2)西洋人名原綴索引：これは(1)ラテン文字とキリル文字(ロシア語)索引とに分けられている。
3. 現代人物事典 朝日新聞社 昭52(1977) 1,967頁 281.03 G34
この事典は第2次大戦の終了時、すなわち1945年以降生存し、現在なお各分野にわたって活躍している人物を対象とした。したがってこの事典は、戦後史人物事典の性格を持つものである。ここに収録されている人物は、戦後日本史の人物を約4,000人戦後世界史人物を約3,000人とした。内閣総理大臣、各省庁大臣、長官(1945~'76)衆参両院議長・副議長(1945~'76)最高裁判所裁判官(1947~'76)が付記されている。索引として、事項索引・人名索引・画引き索引がある。



東は東 西は西

教養部教授 山根 対 助

いろいろな点で日本とフランスとは対照的だ。地下鉄を例にとりて札幌とパリを比較してみよう。

階段を降りて改札口に行く前にガラスのドアのある駅が多い。力いっぱい押さないと開かないのだが、押し開けた後で必ずうしろをふり返り、近づく人がいればそのまま待って押し開ける労をばういてやるのが普通である。遅れてきた人は「メルシー」といって、またつぎにくる人を待つ。これは都市とともに生きる人のモラルなのだろう。

地下鉄の料金は全線均一で切符は乗る時に自動改札機でチェックされるが、降りてホームを出る時は何もない。素通りだ。車内での検札はめったにないためその切符を車内やホームに捨てる人が多い。捨てられた紙くずもいっぱい。旧植民地出身の掃除夫がひきりなしに清掃しているけれどもとても追いつかない。特に休日の翌朝はひどく、ごみ捨て場のようだ。

車輦は1等車と2等車がある。車内はべつに変わりはないのだが料金がだいぶ違う。日本でこんな差別をしようとしたらただではおさまらないだろう。車内の座席もちがう。国鉄の車内、向かいあって座るあの形と思えばよい。

ホームも車の中も、乞食の職場であり、音楽

師たちの演奏会場であり、そしてスリの稼ぎ場である。乞食は子供か、乳のみ児を抱いた母親のなわ張りのようで、貧窮を訴える小さな紙片を示し金銭を乞うのが普通の形。たいていは読まずに首を左右に振って施す意志のないことを示す。すぐに諦めてつぎつぎと移って行くが実入りはすくないようだ。音楽師たちはギターの演奏と独唱が多い。これは演奏が巧みで、陽気さえあれば、かなりの収入になると思われた。スリも多く、聞いたところではその手口もさまざまである。

満員の車内から降りようとする時、日本人ならどうやって道を開けてもらうだろうか。「通して下さい」「すみませんが」「ちょっと」というか黙ったまま肩で他人を押しつけて出て行こうとするか、だろう。パリでは必ず「パルドン」という。これはまことに便利なことばで、「シルヴプレイ」と「メルシー」と三語さえ喋ればパリではどうにか暮してゆけると思われるほどだ。

違いはそれだけではない。自動販売機のあり方、改札口の開閉の方式など。事ごとに見られる日本とフランスの違い、それが私にはとても興味深いことであった。

(やまね たいすけ・国文学)



『ビーグル号航海記』

——ダーウィン没後100年にあたって——

教養部助教授 佐藤 謙

チャールズ・ダーウィン(1809～1882)は進化論と生態学の創始者として、また社会科学や思想に大きな影響を与えた科学者としてあまりにも著名である。しかし、彼の主著、『種の起源(1859)』を難解に思う人は多い。こうした人々に100年以上も愛読されているのが、『ビーグル号航海記(1845)』である。それは何故であろうか？

1831年、22歳のダーウィンはビーグル号による世界一周の探険に出発する。丸5年に及ぶ長い航海を終えたダーウィンはその後、一度も探険に出かけていない。この間に得た知見がダーウィンの一生を決めたのである。

航海はイギリスを出発後、ブラジルから、ウルグアイ、アルゼンチン、チリー、ペルー、そしてガラパゴス諸島(エクアドル)と南米大陸の海岸線にはぼ4年を費し、その後、タヒチ、ニューゼaland、オーストラリアを経て、喜望峯まわりで1836年イギリスに到着している。この航海の間、青年ダーウィンは動植物や化石の採集、観察を続け、それらの膨大な標本を恩師であるケンブリッジ大学のヘンスロー教授に順次送っている。

航海記には生物の生活(生態学)に関する内容が最も多く、そこにはイギリスなどの良く知られた地域のそれと比較しながら、新知見に驚き喜ぶ

若き科学者の姿がある。多岐にわたって丁寧な観察と考察を続ける中で、キュビエの大激変説(天変地異の考え方)を破ったライエルの『地質学原理(1830)』に示唆され、生物の場合でも徐々に変化する傾向があるという事実を得てゆくのである。

また、航海記には、奴隷としてのニグロの姿(ブラジル)、土地を争うインディアンと白人、フェゴの蛮人(共にアルゼンチン)、タヒチの土人の風習、絶滅してゆくオーストラリアの原住民の様相など、暖かいが冷静な目を持った19世紀の白人の人間観が随所に現われている。生物学を離れた人文的な記述だけを取り上げてても味わい深いものがある。

ダーウィンは航海後20年余り、研究と資料のとりまとめを続け、この航海で得た考えを『種の起源』に結実させている。この慎重さの一つには、人類を含む生物の由来を科学的に説明することが当時の宗教的世界観に対立したからであり、また、ダーウィンの科学的態度の現われとも考えられる。

なお、『ビーグル号航海記』は『種の起源』と共に多く和訳されているが、岩波文庫(それぞれ3分冊)が手頃である。是非、目を通したまえ!!

(さとう・けん 生物学)



編集後記

今年もまた本格的なウィンタースポーツの季節となりました。皆さんはこの冬休みにはスキー、スケートで体を鍛えたことと思います。後期試験ではよい成績を取って下さい。

今年度の『だより』はこの号の発行で終わります。皆さんのご協力でいろいろな企画をたてることができました。この誌面をかりて、編集委員一同お礼を申し上げるとともに、重ねて来年度の『だより』の発行にご協力下さいますようお願い申し上げます。なお来年度の『だより』に対してご希望等があれば、図書館カウンターまでお申し出下されば幸いに存じます。

北海学園大学附属図書館報「図書館だより」Vol. 3 No. 4 (通巻80号) 1981年12月20日発行

北海学園大学附属図書館発行 062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 電話 011-841-1161 (代表)

内線、総務係 272 整理係 273 閲覧係 274～275

工学部分室 064 札幌市中央区南26条西11丁目 電話 011-561-2911 (内線 64)